

社員の意識はまだまだ民営化してないの？
大企業の仕事にお役所感覚はいらないぞ。

JR東日本・西日本の運賃や駅名の表記に誤りがあることが発覚した。京滋でも甲南、二条、栗東、宇治などで誤りが見つかり、訂正・払い戻しの対応が進められている。しかし、問題は97年の出来事。乗客から誤表示の指摘があったにもかかわらず、内部処理で訂正し、一切の公表は行わなかった。誤表示は手作業による人為的ミスが原因。人間のすることゆえ、ミスは仕方ない。しかし、組織のもとで行うことなら、人為的ミスが発生しないように何重ものチェックで万全を期すべき。これは出版社でもソフトハウスでも、自動車メーカーでも同じ。どれだけしっかりしたチェック機関があるかで、その企業の格が決まる。ゴソツミスや、自動車を三流以下のやること。今までのミスがほとんど指摘されなかったのは、国民がJRを心から信用していたからだ。その自覚と責任が欠けていたことは非常に残念。JRは立派な企業なのだから、他の企業に対しても規範を示して欲しいものだ。

いまだどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

内閣不信任案否決

主役の森首相抜きで繰り広げられた政治劇の舞台裏で何が起こったのか？

あなたが本物のリーダーならば
一言叫びべきだったのでは？



与党でなく、自民党内で起こった「森おろし」の劇は、加藤幹事長ら反対派の欠席によりあえなく否決という幕切れを迎えた。そこで奔走したのが野中幹事長。党の分裂や解散総選挙を回避するため加藤幹事長などに働きかけ、薄氷の森政権をなんとか維持することに尽力した。国民の目からは、結局は劇的な変化もなく、茶番にも見える。前夜の野中氏と加藤氏のやりとりで何があったのか気になるころだ。

確かに森首相は軽率な言動が多く、支持率を自ら下げる困った首相だ。だからといって、首をすげ替えただけで日本の政治が根本的に変わるとは思えない。大切なのはトップではなく、それを支える手足であり、胴体である。もちろん、それは議員のことを指す。今回の騒動が議員の心に何を残したのかは定かでないが、5月の内閣改造や解散総選挙に良い影響を及ぼしていることを願うばかりだ。あえて今回の騒動を良心的に解釈するなら「簡単に解散総選挙→「組織票や地方票をかきあつめる自民党による相変わらずの組閣」というお決まりの筋書きでならなかったことぐらいか？

過去にもありましたねつ造(疑惑)

こんな有名な写真も実はウソでした。



捕われた宇宙人



旧石器ねつ造事件発覚!

考古学の信用を破壊した理事長は悪人か? スケープゴートか?

東北旧石器文化研究所の藤村理事長が宮城や北海道の遺跡で発掘ねつ造を行っていたことが明らかになった。この事件は日本の考古学史上例がなく、仮説と実証の結びつきで成り立っている考古学の世界への信用を大きく揺るがせる問題となっている。

確かに背景には声を大に先輩の発見や理論に異を唱えられない学会の体質、「最古」や「最大」という冠言葉に弱い報道の性質もある。しかし、それは考古学の世界に対する敬意を持っているから。藤村氏はそれを完全に裏切った。おかげで他の遺跡から出土した遺物についても信用できなくなったのではないかと。歴史とはなんと簡単にねつ造できるものなのか? そんな不確かな歴史でも、私たちは、必死で学び(学ばされ)、将来を決める大切な試験問題として本気で取り組んできたつもりだ。たったひとりの軽率な行為が、学ぶ者、教える者、村おこしに期待している者、古代のロマンに夢を馳せる者の心は完全に冷えきってしまった。



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店眠ってしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>